

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、三和圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和4年6月9日（木）9時半から11時まで
参加者	委員：11人 事務局：4人 その他：6人（市役所・区役所・地域包括支援センター）
場所	飯田市民サービスセンター 講座室A・B
内容	<p>1. 開会</p> <p>新任の生活支援コーディネーターより、自己紹介をした。 新任の委員5名と協議体の正副会長を紹介した。</p> <p>2. 挨拶 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①これまでの振り返り 新任委員が5名いることから、生活支援コーディネーターより、生活支援体制づくり協議体とはどういうものでどういった目的のために集い、これまでどのような活動をしてきたか説明した。</p> <p>②これからの方向性について 生活支援コーディネーターより今年度の目標とスケジュールを提示した。 <u>目標：今ある活動が抱える課題を知り、活性化へつなげよう</u></p> <p>③サロン活動者にきいたアンケート結果を共有・意見交換 サロンの現状や課題を地区社協のサロン活動者へきいたアンケート結果について、コミュニティソーシャルワーカーより共有した。 アンケート結果を基に地区ごとに分かれて、意見交換をした。</p> <p>4. 次回の協議体会議の日程について 日時：9月14日（水）9：30～11：00 会場：白脇協働センター ホール</p> <p>5. 連絡事項 〈浜松市役所高齢者福祉課より〉 「70歳現役都市・浜松」やらまいか型人生年齢区分が記載されたウェットティッシュを配布し、それについて説明した。</p> <p>6. 閉会 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体 副会長</p>

〈飯田地区グループワーク内容〉

■活動場所について

- ・月に1度、神社の境内でグランドゴルフを行なっているが、場所が限られてしまうためもっと広い場所を利用できると良い。

■交通手段について

- ・食事や遠出をしたいという希望があるが、交通手段がなくなかなか実現できない。食事に行くときは、送迎バスのある店を選んでいる。どこかバスを出してもらえるところ提携できれば行動範囲も広がり、サロン参加者も増えるのではないかな。
- ・以前、足の不自由な方が車椅子でサロンに参加した際、周囲の対応で不快な思いをしたようで、一度参加したきりで来なくなってしまった。間口を広げて多様な人を受け入れていきたいと思っている。1人で参加することが難しい人は、家族に付き添ってもらっても良いし、そのような対応を自然にできるようになりたい。
- ・浜松市では身体障がい者へ友愛号というマイクロバスを貸し出しているが、地域の高齢者が利用できるよう提案してみてもどうか。
- ・ふれあい交流センターなどを活用し、移動可能な60代70代を対象とした居場所を展開し、必要に応じて自宅に近い地域のサロンに移行できるよう運んでいけると良い。
- ・交通費1人当たり500円を出し合い、サロンメンバーの自家用車で浜北まで行ってウォーキングを実施したところ好評だった。
- ・春は花見、秋は紅葉狩りをしたいが参加者が高齢のため公共交通手段を利用するのは難しい。桜の枝を切ってきたり、落ち葉を集めてきたりと工夫して、公会堂の中で行なった。先日は、様々な種類のあじさいを持ち寄り、雨の歌を歌ったり、詩を読んだりした。

■参加について

- ・町によって自治会に加入していないとサロンに参加できない風潮があり、誘っても参加につながらなかったケースがある。
- ・シニアクラブへ入会していないが、グラウンドゴルフのみ参加する人もいる。これも新たな方法だと感じており、いずれ入会してもらえたらと考えている。

■保険について

- ・自治会活動中のケガは、自治会にて加入している保険が適応されるが、補償内容に不安がある。グラウンドゴルフ大会などの場合は、他の保険にも加入しようと考えている。

■その他

- ・コロナ禍で長らくサロン活動を中止していたため閉じこもりがちになっていた参加者がサロン再開後は多くの方が元気になっていた。サロンで「おい、元気だったか」「久しぶりだな」と笑顔で会話をしている参加者を見ると、“サロンをやらなくてはいけない”という原動力になる。また、出かけるために服装を考えたり、身なりを整えたりと前向きな気持ちを持てるようになり、笑顔が多くなったようだ。

〈白脇地区グループワーク内容〉

■活動内容や居場所のあり方について

- ・活動のマンネリ化も参加者が伸びない原因だと考える。アンケートをみると、現状に問題ないと捉えていることが問題である。
- ・昔は60歳で退職した後、孫の世話をするなど地域と関わりをもつ期間があった。子ども会と老人会の活動がつながっていた。今では子ども会と老人会の活動は全く別になっている。子ども会の廃品回収も親のみで済ませてしまい、住民の関わりは薄くなっている。
 - ➡現在は70代まで働いている人が多く、退職する頃には自分自身が高齢になり、施設に入るなど地域に参加する期間がなくなっている。以前と生き方が変わってきているので、活動者側も集いのあり方を考えて変えていかなければならないのではないか。
- ・シニアクラブにはグラウンドゴルフ、カラオケ、輪投げなどの同好会が多く、その活動内容に興味があれば参加しようと思えないのではないか。グラウンドゴルフに誘われた際に、「自分はグラウンドゴルフが好きではないが、カラオケなら行く」と言っても、コロナ禍によりカラオケの会が中止になっており、その他の活動にはあまり興味がないため、参加しないということもある。
- ・今まで集いの場といえば、年齢制限がありシニアクラブや同好会などの形が通例であった。今の時代にあわせ、地域の全員が対象の居場所にできると良いのではないか。
- ・年会費や日程の縛りが参加のハードルを上げているのではないか。「ちょっと行きたいな」と思ったときに行ける居場所であるといい。
- ・申込期間などが設けられている講座の申込などは、高齢者には手続きが難しい。
- ・カフェ型の居場所についての事例が他地域にある。時間を決めて公民館を開放し、その時間内なら自由に来て、お茶を飲んで、おしゃべりをして、好きなときに帰れるようになっている。
 - ➡以前、地域の高齢者の希望で白羽町のお寺を会場にポットとお菓子を用意して「お茶のみ会」の開催が計画された。民生委員と地域の代表者が検討し、活動を始めようと思った矢先の方が亡くなったり、施設に入所したりし、計画は頓挫した。現在は地域住民が世代交代し、そうした要望はない状況。
- ・地域包括支援センターが携わり、ロコトレとシニアクラブを関連づけた事例が浜北にてある。地域包括支援センター三和でのロコトレの参加者とシニアクラブの加入者が一緒に活動できる機会を設けるとお互いの活動に参加するきっかけになるのではないか。
- ・抽選会をして景品をもらえたり、歌手の歌を聴けたり、健康チェックをしてもらえたりするなど、参加者にとってのメリットがある内容にすると良いのではないか。参加者は、自分がなにかすることを楽しむより「見たい」「聴きたい」「食べたい」「もらいたい」という思いをもっている人が多い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が再開された際は、抽選会や食料品販売などを含めたイベントを企画したい。その場を活用して、サロンやシニアクラブの活動をPRできると良い。 ・出前講座はグループ化せず、参加しやすいのではないかと。町ごとの居場所では範囲が広いので、字ごとに「出前講座（イベント）」を開催できると良い。それをきっかけにつながった人たちが他の活動にも参加するようになるのではないかと。 ・内容は繰り返して良いので、出前講座などを活用したい。 ・シニアクラブまでの大きな組織ではなく、小さなグループ（字単位など）での活動が必要である。 <p>■参加者について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアクラブは参加者内でグループ化しているため、参加するにはハードルが高い。誰か知っている人がいないとせっかく参加しても楽しめず、「楽しくなかったからもう行かない」と参加しなくなる人が実際にいた。 ・新規参加者には、会長や知り合いがついて紹介するなどサポートができると良いのではないかと。 ・70歳から入っても、他に90歳代の参加者もおり、活動内容が合わない。 ・居場所のメンバーが固定化して増えないという活動者の悩みがある。 <p>■交通手段について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館でイベントが開催されることが多いが、そもそも公民館までが遠くて行けない人がいる。また、あまり公民館へ行きたいとも思わない。町ごとにあるお寺や空き家を活用できると良いのではないかと考える。 <p>■コロナ禍の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、これまでの活動ができておらず、シニアクラブの参加者が減った。コロナ禍収束後の活動の見通しも立たない。 ・懇親会や旅行ができなため、参加者の楽しみが減った。 ・抽選会を活動に盛り込むと参加者が増えるが、コロナ禍のため、そもそもイベントができない。 ・コロナ禍でマスクを着用しているため、表情がわからない。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくりには、「場所」、「人」、「お金」、「アイデア」が重要。 ・これまでは、高齢者の状況をよく知っている人たちのみで話し合ってきたが、地域の子ども達は大人にない柔軟で新しい発想をもっているため、地域の中学生にもこうした地域の課題について考える協議の場に入ってもらっても良いのではないかと。南部中学校の校長と調整するなど、ぜひ検討してほしい。
<p>今後の見通し等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・白脇地区のグループワークにて意見があがった地元の中学生の協議への参加について構想を練り、地域の中学校へ提案するなどしていく。 ・飯田地区のグループワークにて意見があがった浜松市役所 障害保健福祉課の友愛号について、利用可能な対象や現在利用されている頻度などを確認し、利用対象を広げられる可能性を探っていく。

